

院内がん登録2020年（令和2年）全国集計から見る新型コロナの影響

○ 院内がん登録2020年全国集計が公表（令和3年8月 国立がん研究センター）

- 2020年（令和2年）について、全国においては、前年の登録数と比べて60,409件の減少（平均4.6%減少）。
本県※1においては、前年の登録数と比べて298件の減少（平均5.8%減少）。

※1 県内がん診療連携拠点病院等4病院の状況。下表参照。

- 厚労省の見解は、「新型コロナの影響により早期がんを中心にがん発見数が減少したものである可能性が高い。」

＜県内がん診療連携拠点病院等における院内がん登録数＞

(1) 全部位の推移 括弧内は対前年増減率(%)

病院名	2019年(令和元年)	2020年(令和2年)	対前年増減数
山梨県立中央病院	1,992	1,984	(△0.4) △8
山梨大学医学部附属病院	2,227	2,101	(△5.7) △126
山梨厚生病院	392	247	(△37.0) △145
富士吉田市立病院	505	486	(△3.8) △19
4病院合計	5,116	4,818	(△5.8) △298

(2) 発見経緯別の推移 括弧内は対前年増減率(%)

	総数	がん検診・健診等	他疾患経過観察	剖検発見	自覚症状等	不明
2018	4,450	878	1,306	0	2,177	89
2019	(△0.1) 4,445	(△4.6) 838	(△4.2) 1,251	(0) 0	(5.6) 2,299	(△36.0) 57
2020	(△5.8) 4,189	(△12.3) 735	(4.8) 1,311	(0) 0	(△10.8) 2,051	(61.4) 92

- 本県のがん発見は、前年に比べがん検診・健診等によるものが12.3%、自覚症状等によるものが10.8%の減少。 1

市町村がん検診受診率への影響

○ 受診者数への影響 (※本資料では、2年連続の受診者も計上)

	受診者数(人)			前年度増減率(%)	
	2018年度 (H30年度)	2019年度 (R1年度)	2020年度 (R2年度)	H30→R1	R1→R2
胃がん検診 50～69歳、2年ごと※	19,987	19,179	14,165	△4.0	<u>△26.1</u>
大腸がん検診 40～69歳、1年ごと	50,343	48,660	39,017	△3.3	<u>△19.8</u>
乳がん検診 40～69歳、2年ごと※	26,897	25,384	20,044	△5.6	<u>△21.0</u>
子宮頸がん検診 20～69歳、2年ごと※	34,091	30,293	28,369	△11.1	△6.4
肺がん検診 40～69歳、1年ごと	55,783	53,819	42,826	△3.5	<u>△20.4</u>

- ・ 近年は人口減等により受診者数が減少傾向だが、R2年度については例年でない減少。
- ・ 個別検診の実施割合が高い子宮頸がん検診については、前年度に比べ6.4%の減少に留まる。

(出典：地域保健・健康増進事業報告)

市町村がん検診受診率への影響

○ がん発見数への影響 (※本資料では、2年連続の受診者も計上)

	受診者減少数 R1→R2(人)	がん発見率 許容値(%)	発見できた可能性 (人)
胃がん検診 50～69歳、2年ごと※	△5,014	0.11	6
大腸がん検診 40～69歳、1年ごと	△9,643	0.13	13
乳がん検診 40～69歳、2年ごと※	△5,340	0.23	12
子宮頸がん検診 20～69歳、2年ごと※	△1,924	0.05	1
肺がん検診 40～69歳、1年ごと	△10,993	0.03	3

受診していれば発見できた可能性のあるがんを算出

- ・ がんの発見が遅れ、早期の治療につながらないケースの増加が懸念。